

□大会第6日目 9月23日(土)

【評】
利府が仙台南を終始投打で圧倒し、2年連続東北大会の切符を手にした。利府は初回、先頭林田が中前安打で出塁すると手堅く塁を進め四番長谷川が中前適時打を放ち1点を先制した。追加点が欲しい利府は3回、一死満塁の好機をつくると先制打を打った四番長谷川が再び敵失を誘う強烈な打球で2点を追加した。その後も着実に加点しリードを大きく広げた。守備でも利府主戦長谷川が直球、スライダーをコーナーに集め5回1安打7奪三振無失点と完璧な内容で試合を決定付けた。仙台南は、序盤の攻防で持ち前の粘りを見せたかった。

【評】
仙台育英が全体を通じて試合の主導権を握り、6年連続東北大会の切符を手にした。育英は初回、先頭打者が四球で出塁し一死三塁の好機をつくと三番鈴木佳が中前適時打を放ち1点を先制した。一方、角田も2回裏、2本の長打でチャンスを作ったが、走塁ミスが絡み無得点であった。その後も育英は、3回は二番中里の右越えソロ本塁打や8回には盗塁を絡めた三連打で着実に加点していった。守備では、佐々田一田中の継投による無四球9奪三振の投手陣と無失策の堅守で角田打線が無得点に抑え、堂々たる決勝進出を果たした。